

月

NEXT STAGE

火

開発 デザイン

水

調達

MSTコーポレーション  
取締役営業部長

弓場 隆氏

工作機械用の工具保持具を主力とするMSTコーポレーション(奈良県生駒市、溝口春機社長、0743・78・1184)。金型の直彫りに対応できる精密・高剛性の焼きばめホルダーに強みを持つ。2009年に相反するマーケットとも言える、金型放電加工用グラファイト電極の受託加工を開始し、受注を伸ばしている。参入背景と成長要因を弓場隆取締役営業部長に聞いた。

(東大阪支局長・坂田弓子)

「なぜグラファイト加工を。」

「ユーザーは同じ金型メーカー。マシンニング」

## 切削・放電 金型製作に貢献

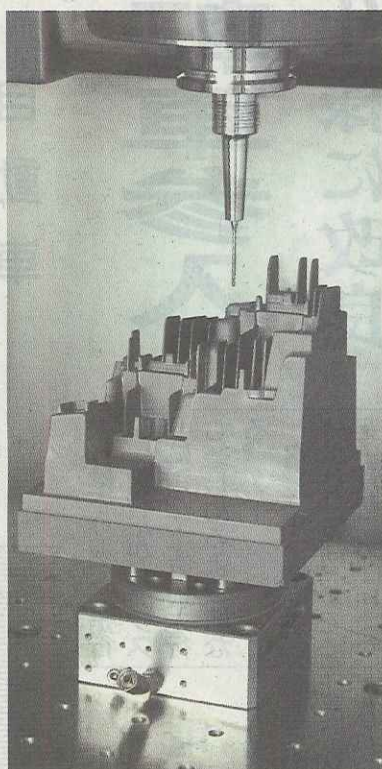
### グラファイト電極 受託加工

新分野に  
売って出る

「グラファイトは銅ゲンターでの直彫りではホルダー、放電加工の型彫りでは電極の速度も高まる。海外と、顧客の加工ニーズでは、グラファイト電極が主流だ。金型の仕に合わせ、金型製作に貢献できる。グラファイト電極は粉じん対策をしたグラファイト加工機が必要で、金型メーカーが内製するには投資がネックとなる。電極普及の壁となっている」

「MSTのグラファイト電極の特徴は。グラファイト加工の市場を開拓する」

機13台を保有し、5軸機もあるため、複雑形状加工が可能だ。ロボットも活用し、24時間自動生産できるため、量産にも対応している。納期は最短で2日と短い。工具保持具メーカーとして、長年蓄積してきた切削加工の技術も強み。3D(3次元)スキャニングによる形状評価もできる。グラファイト加工事業は現在、年率20%の成長率が続いている。また柱とまでは言えないが、年間売上高で数億円規模になった。15年にはタイにも工場を設置した。国内外でグラファイト電極



グラファイト電極の形状加工例